

SSKS

# あけぼの つうしん

## 10月号

1995年 8月10日 第3種郵便認可(毎週1回 水曜日 発行)  
2023年10月12日 発行 SSKS 増刊通巻 第8851号  
発行所 東京都世田谷区祖師谷3-1-17  
障害者団体定期刊行物協会 定価50円



きょうされん「グッズデザインコンクール」で  
府中共同作業所の田中由美子さんが表彰  
されました。(きょうされん全国大会にて)

社会福祉法人あけぼの福祉会 <http://akebono-fukushi.com>



- 府中共同作業所(法人本部) 〒183-0056 東京都府中市寿町3-3-6  
☎042-367-0640 E-mail: [kyoudous@akebono.fuchu.tokyo.jp](mailto:kyoudous@akebono.fuchu.tokyo.jp)
- ワークセンターこむたん 〒183-0056 東京都府中市寿町3-3-6  
☎042-306-8639 E-mail: [komutan@akebono.fuchu.tokyo.jp](mailto:komutan@akebono.fuchu.tokyo.jp)
- 府中生活実習所 〒183-0005 東京都府中市若松町5-2  
(短期入所事業併設) ☎042-363-5251 E-mail: [f-seijitu@akebono.fuchu.tokyo.jp](mailto:f-seijitu@akebono.fuchu.tokyo.jp)
- 地域生活支援センターあけぼの 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル1F  
☎042-358-1085 E-mail: [siencenter@akebono.fuchu.tokyo.jp](mailto:siencenter@akebono.fuchu.tokyo.jp)
- ホームヘルプステーションきぼう 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル1F  
☎042-352-0630 E-mail: [kibou@akebono.fuchu.tokyo.jp](mailto:kibou@akebono.fuchu.tokyo.jp)
- グループホームペンぎんはうす 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル3,4F  
(グループホームあけぼのユニット) ☎042-319-8915 E-mail: [pengin@akebono.fuchu.tokyo.jp](mailto:pengin@akebono.fuchu.tokyo.jp)
- グループホーム樹林の家 〒183-0026 東京都府中市南町6-52-10  
(グループホームあけぼのユニット) ☎042-319-2268 E-mail: [kirin@akebono.fuchu.tokyo.jp](mailto:kirin@akebono.fuchu.tokyo.jp)
- あけぼのショートステイ 〒183-0056 東京都府中市寿町3-9-11 山上ビル2F  
☎042-319-8917 E-mail: [akebonoshort@akebono.fuchu.tokyo.jp](mailto:akebonoshort@akebono.fuchu.tokyo.jp)



# 今の特集

## きょうされん第46回全国大会 in 埼玉

### 3年ぶりの現地参加

8月30日、31日に大宮で『きょうされん第46回全国大会 in 埼玉』が「さけぼう命の尊さ いたこう人権の重み つなごう平和への願い」をスローガンとして開催されました。

ここ数年、あけぼの福祉会では、新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンラインでの参加や職員のみでの参加となっていました。現在、完全に終息したわけではありませんが、5類感染症に移行したことや社会状況を鑑み、また全国大会で交流をしたいという思いから、今年は2019年の第42回愛知大会以来久しぶりに利用者と一緒に現地参加をしました。

今回あけぼの福祉会は1日目の開会全体会・基調報告、企画に利用者12人、職員13人で参加、2日目の分科会には利用者3人、職員6人で参加をしました。

1日目は大人数だったこともあり、大型バスでの移動になりました。バスの中で利用者からは「旅行みたいでわくわくする」と久しぶりに大人数で出かけること自体も楽しんでいる声が聞かれました。

### 1日目

開会全体会では、「平和を前提に、障害のある人と支える人、関係者の今後のあるべき姿を考える」をテーマとして基調報告がありました。緊張感を増す世界情勢の中で、人権尊重や平和へのとりくみの重要性がより高まってきていること、国連の障害者権利委員会による第1回日本審査に基づく総括所見を受けての今後のとりくみと運動展開の必要性についてといった国内外の障害者を取り巻く情勢ときょうされんとしての課題について大変勉強になる話を聞きました。

全体会の後は分かれて各企画に参加をしました。「文化企画」では、当事者を中心とした4つのグループによるダンスや演奏、歌などが披露されました。思い思いの形で表現をしている姿は笑顔にあふれていました。表現することの楽しさ、喜びを感じられる素敵なステージでした。

「埼玉支部利用者部会 WA 企画」では、大会イメージソングを聴き、埼玉ご当地クイズをみんなで楽しみました。「参加者のしゃべりば」という全国から集まった参加者

が輪になって自己紹介をしたり、お互いに質問をしたりと直接話をする時間もありました。自治会の話やとりくみの話など、大変に盛り上がっていました。どちらの企画も他事業所のとりくみを知ることができるなど、貴重な時間になりました。



参加者のしゃべりば

## 2 日目

2 日目は「はたらく」や「くらす」などそれぞれに興味のある学びたいテーマを選び、分科会に参加をしました。

「暮らし・居住」分科会は、「暮らしの質を高め、選べる暮らしをめざす」がテーマでした。ここでは、支援を受けながら地域で一人暮らしをする当事者本人が良かったことや苦労したこと、思いなど自らの体験についての話しがありました。また、それを支える事業所側からは、限られた社会資源の中でいかにその人にとってのより良い生活を作り上げていくのか、どのように支援を継続していくのかという具体的な実践報告を聞くことができました。なかでも、当事者の「必要なときに、必要な分だけ支援してほしい」という言葉は、当然のことながらあらためて胸に刻んでいかなければならないことだと感じました。

利用者交流の分科会では、互いの仕事や

生活について意見交換を行ない、大きな刺激になりました。参加した利用者のみなさんは積極的に手を挙げ発言をしていました。分科会后「たくさん話ができ嬉しかった」と感想を教えてくださいました。

## グッズデザインコンクール受賞

大会の最後に閉会全体会があり、その中で第 15 回グッズデザインコンクールの表彰式がありました。これは、きょうされん加盟事業所利用者が応募できる絵画コンクールです。このコンクールの入賞作品は「なかまのうた」ブランド商品に使用されます。今回は全国から 1703 点の応募がありましたが、その中から府中共同作業所の田中由美子さんの作品が入賞しました。この作品は2024 年壁掛版「はたらく仲間」のうた」カレンダー6月に使用されます。

2 日間を通して、全国のさまざまな方の話を聞き、交流することができ、今後の活力を得ることができた大会参加でした。この経験を持ち帰って、日々の活動に繋げていきたいと思います。



斉藤なを子理事長から表彰状を受け取る田中さん  
舞台スクリーンには田中さんの描いた絵が紹介されています

## 府中共同作業所

# 班編成の見直し

～利用者のニーズに応じた活動の保障をめざして～

4月号で簡単に紹介しましたが、府中共同作業所では2023年度より新たな作業班「はばたけ班」の活動がスタートしました。また、既存の「がんばる班」「あおぞら班」も活動内容を見直しています。新しい、班編成が作られた経過と、スタートして半年経過したそれぞれの班の様子を紹介します。

### 利用者の年齢層の変化

表1 利用者の年齢層の推移

年代	2010年	2022年
18～	4人	2人
20代	10人	8人
30代	9人	9人
40代	11人	8人
50代	3人	8人
60代	0人	3人
70代	0人	1人
合計	37人	39人

表1が表すように、2010年度と比較して利用者の年齢層が高くなってきたことがわかります。2010年50歳代の利用者は全体の8%でしたが、2022年度50歳代以降の利用者が占める割合は30%となりました。

### 個々のペースに合う活動保障

がんばる班にも作業中心の活動ではなく、「余暇活動で身体を休める時間も欲しい」「機能維持のための運動の時間をもっと作りたい」という利用者が増えてきました。

現状の利用者の状況に応じた活動プログラムにするため、作業活動と余暇活動のバランスの見直しが必要となってきました。そこで、班編成と活動内容を見直していくためのプロジェクトが2022年度より動き出しました。

2022年11月より試験的に新たな班編成での活動を行い、利用者には体験しながらどの班に所属したいか考える機会を設けました。

新しい班で新たな仕事にチャレンジするか？今までの班で経験を活かした仕事をしていくのか？悩みながら選択した利用者もいました。

準備期間の体験や試行を通して職員も利用者も意見を出し合い、それぞれの班の活動スタイルを創りだし、2023年4月の本格スタートを迎えました。

## あおぞら班

健康を守りながら、  
生活を豊かに、  
働く喜びを感じる

昨年度まであおぞら・木工として1階のあおぞら班と3階の木工部が共同で作業や活動を行なっていましたが、再編成に伴い木工部から2名の利用者が加わり、新あおぞら班としてリスタートしました。

あおぞら班は作業を中心に据えながらも健康や生活・文化的活動も重視し、日々みんなが楽しく過ごせるよう活動の保障をしています。そのような中リスタートして大きく変わったことは、3つあります。

1つ目はこれまでがんばる班布製品部で作っていた「リバーシブルバッグ」を作業として引き継いだことです。

「あ～間違えた」「これでいいのかなあ」と悩み、苦戦しながらも難しい工程にチャレンジし、1つの商品にゆっくり時間をかけながらいねいに作っています。数多く作ることは難しいグループですが、自助具を一人ひとり工夫して利用者の力が発揮できるようにしています。完成した商品の納品も行なっていますが、納品に行った利用者は笑顔で戻ってきて「納品してきたよ」と嬉しそうに報告してくれます。自分たちの商品に誇りをもって、納品できたことの喜びを感じられているのだと思います。

### 【週のプログラム】

	月	火	水	木	金
	作業	作業	作業	作業	作業
午前	体づくり	体づくり	体づくり	体づくり	体づくり
午後	リラクゼーション	創作 学習	創作 学習	リラクゼーション	リラクゼーション



2つ目は「集団」として行なう「創作活動」です。季節に合わせたテーマを決めての創作物を1カ月かけてみんなで作りあげます。思い思いに切ったり貼ったり色を塗ったり、「個々」の創作物が最終的には「集団」の一つの大きな作品になります。できあがった作品を見て「すごいね」「きれいだね」とみんなで分かち合い、写真を撮って12カ月分出来たら「あおぞらカレンダー」にしようとみんなで楽しみながら作っています。

3つ目は「個」として行なう「私の時間」です。集団のとりにくみとは別に、利用者・職員が1対1でやりたいことを相談し、実現していくというとりくみです。「家族へプレゼントしたい」「コンビニスイーツを食べ比べたい」「クレーンゲームで大物ゲットしたい」「イルミネーションを作りたい」「電車のことを調べたい」「実験したい」などなど、個々のやりたいことをやる中で集団実践とは異なるさまざまな表情や反応を見ることができます。

これからもあおぞら班は「木(個)」と「森(集団)」、「木」が「森」になるような実践を展開していきたいです。

## がんばる班

自分のペースで  
働く! 楽しむ!

### 【週のプログラム】

	月	火	水	木	金
午前	作業	作業	作業	作業	作業
午後	作業	作業	余暇	作業	作業
	余暇	余暇		余暇	余暇

\*午後の活動は作業と余暇の選択性です

\*水曜日は班全体の余暇活動の時間となっています

昨年まではふきん部・布製品部・総務部という3つの部で活動をしていましたが、班の再編成に伴い、ふきん部と総務部の2つの部で構成される班になりました。

がんばる班は利用者がそれぞれの工程に責任を持って取り組み、お互いに励ましあえる集団作りを目指しています。

作業前はそれぞれが立てた月の目標を確認し、一日の最後は終わりの会で、「僕は今日ミシンを〇枚縫えました!」「私は集中して作業できました!」「今日は不良が出てしまったので、明日はがんばります」などと、一日がんばった仲間を称えあい、励ましあう時間を作っています。

班の再編成の際に大きく変更したのは、余暇活動の時間です。余暇活動に参加した場合は半日分の給料が減給となる仕組みとなっており、それを踏まえて個人面談でそれぞれの意見を聞きました。

その結果、全員が週に1度は余暇活動の時間が欲しいという意見だったので、週1回全体での余暇活動を設定しました。

「午後もしっかり作業をして給料がもらいたい」「体力的にしんどいので午後は作業なしで余暇活動にしたい」「週1回だと少し足りないのでは週2回の余暇活動が欲しい」といったように、それぞれのニーズに応えることができるようになりました。

はじめは職員も利用者も慣れない中でしたが、現在は午前⇒全員で作業、午後⇒余暇活動というルーティンが定着しています。

また、余暇活動があることで「午後は余暇だから午前の作業をがんばろう」「明日は余暇活動があるから、今日中にこの仕事を終わらせよう」など、仕事に対する前向きさも生まれています。

これからもそれぞれのペースで、「はたらく」と「楽しむ」のメリハリをつけながら活動していきたいと思えます。

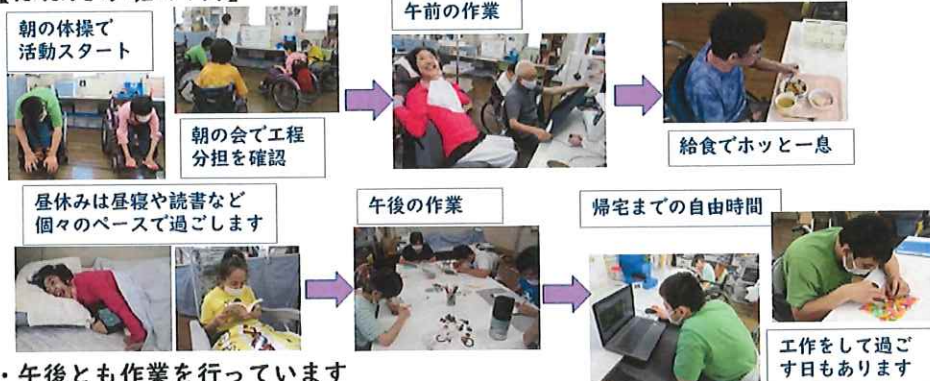


# はばたけ班

心も身体も元気に！  
やりがいを感じながら働く

\*希望者には余暇活動の時間を設けています  
\*施設全体の行事以外の日は、基本的に午前・午後とも作業を行っています

## 【はばたけ班の1日】



はばたけ班は再編成の中で新たに創設されました。「作業をがんばりたい」「お給料をたくさん欲しい」といった希望を持つグループのため、基本的には1週間を通して午前・午後とも作業活動を行っています。

### 心も身体も元気に働くために

毎日の作業活動を継続させるために、休憩時間の過ごし方も大切にしています。

朝はみんなで体操をして、身体をほぐしてから作業をスタートします。昼休みには、読書をして過ごす人もいれば、午後の作業も集中してとりくめるように、昼寝をして身体を休める人もいます。長時間車椅子に乗っている身体を、伸ばしたり・休めたりする時間を作れるように、一人ひとりのペースに配慮しながら過ごせるようにしています。

午後の作業が終わってから送迎までのちょっとした時間には工作の時間を設けたり、みんなでおしゃべりしたり、楽しい時間・リラックスできる時間を作るようにしています。工作の時間から、新たな仕事のアイデアが浮かぶこともあります。

メリハリのある1日を過ごすことで、仕事をがんばる意欲につなげていきたいと考えています。

### やりがいを感じながら働くために

はばたけ班では、ミシンを使った縫製品作りを中心に作業活動をしています。

「〇〇さんから、たくさん注文きてるよ」「今月の売り上げは、先月を超えたね!」と作った製品が売れていくこと・お客様に喜んでもらえることを励みにしながら、難しい工程にもチャレンジしています。

ミシン操作のスイッチはバリエーションに富んでいて、それぞれの動作を引き出す・主体的に作業にとりくめる環境づくりを工夫しています。ミシン作業では、利用者がスイッチを操作することで動くミシンで職員が縫うという作業だけでなく、自分でミシン操作をして縫うこともチャレンジしています。

#### ↓ミシン縫いの練習



#### ↑新開発の両腕で引っ張るスイッチ

利用者の持つ力の可能性を引き出す工夫と、売れる商品作りの工夫を試行錯誤で取り組んできた上半期でした。下半期もさらなる成長ができるよう、互いに高め合う班を目指していきたいと思っています。

インスタグラムで商品の紹介をしています。ぜひご覧ください。



活動内容紹介  
フース  
あけぼの福祉会事業所の様子を映像を中心に紹介します

社会福祉法人あけぼの福祉会

作業体験  
特別支援学校在校生の方限定参加です。  
2か所の事業所の作業体験ができます。

誰でも参加できます!

# あけぼのまつり

雨天決行

日時 2023年11月11日 土  
13:00~15:30

場所 ワークセンターこむたん  
府中共同作業所  
府中市寿町3-3-6

みんなで一緒に楽しめる

ステージ企画

模擬店  
カレーライス  
やさそば  
ジュースなどなど

ミニ縁日  
小さなお子様も楽しめる  
ゲームコーナー

食事加工(ペースト・刻み)ができます!

地域みなさんに府中市肢体不自由児者父母の会、並びにあけぼの福祉会の活動を知っていただき、一緒に楽しんでいただくイベントです。  
2019年以來4年ぶりの開催です。

主催 府中市肢体不自由児者父母の会  
社会福祉法人あけぼの福祉会  
あけぼの福祉会後援会

お問い合わせ  
あけぼのまつり事務局 TEL: 042-367-0640  
(府中共同作業所内)  
あけぼの福祉会についての詳細はこちらから  
[社会福祉法人 あけぼの福祉会 \(akebono-fukushi.com\)](http://www.akebono-fukushi.com)

会場案内図 京王線府中駅徒歩9分  
JR北府中駅徒歩10分

1995年 8月10日 第3種郵便認可(毎週1回 水曜日 発行)  
2023年10月12日 発行 SSKS 増刊通巻 第8851号

### 【編集後記】

新型コロナウイルスが5類感染症に移行したことを受けて、施設内行事も徐々に再開しています。9月には、3年振りにレストランでランチをする外出企画を実施しました。

3年振りということで、行きの車内から緊張した面持ちだったり、レストランへ行くことを理解して期待感を持った表情をしていたり、様々な反応が見られました。レストランに到着してランチコースを注文し、前菜からデザートまで、みなさん目を輝かせながら笑顔で食べました。

そのような様子を見て、外出企画でしか得ることのできない経験は刺激的で、自然とみんなが笑顔になる大切な行事であると実感しました。まだまだ気を抜くことはできませんが、少しずつ行事を再開していき、利用者と一緒に様々な経験を積んでいきたいです。

府中生活実習所 来栖 早紀